

DOSSIER  
DE  
PRESSE

# extra ARLOS!

Scoop 365°

アルル プレス資料

[www.arlestourisme.com](http://www.arlestourisme.com)



## 目次

プロヴァンス地方アルルによろこそ.....	3
アルル 芸術と歴史の町.....	5
アルル ミュージアムの町.....	7 - 8
アルル ゴッホの光に包まれた町.....	9
アルル カマルグの中心地 .....	10 - 13
アルル 伝統の町.....	14 - 18
アルル 祭りと文化の町.....	19 - 21
アルル 暮らしのアートが光る町.....	21
アルル プロヴァンス地方を 365°見渡せる町.....	22 - 23
アルル 発展する経済の町.....	23 - 25
アルルに滞在する.....	26
数字で見るアルル.....	28

## プロヴァンス地方 アルルへようこそ

ブーシュ・デュ・ローヌ県内第3の都市アルルは、77,000ヘクタールの面積を擁し、フランス最大のコミューン(市町村)となっています。しかしここは何よりも「**芸術と歴史の町**」。三つの意味で**UNESCO**の世界遺産と深い関わりをもっています。

- 町にある**ローマ遺跡とロマネスク様式建造物群**が世界遺産に登録されています。
- 世界遺産「**サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路**」を構成しています(「ローマの道」と「エルサレムの道」の一部ともなっています)。「アルルの道」は中世よりフランスおよびヨーロッパを横断してサンティアゴ・デ・コンポステーラへ向かう4本の道の一つでした。
- アルル郊外にある**カマルグ**は世界的にも貴重な自然環境をもち、ユネスコの**生物圏保護区世界ネットワーク**に登録されています。

**カマルグ**はアルル市南部に広がるローヌ河の三角州を指し、ヨーロッパ屈指の美しい自然を誇ります。動植物の楽園でもあるこの地は**カマルグ地方自然公園 Parc naturel régional de Camargue**として保護されており、貴重で豊かな自然に溢れています。

市の北部にはアルル地方第二のものとなる**アルピーユ地方自然公園 Parc naturel régional des Alpilles**が広がっています。農地と地中海地方の森林からなるこの地帯には100種を超える希少種あるいは保護種が生息しています。

アルルの名は今や**ゴッホ**の名前と分かちがたく結びついています。アルル滞在中に彼は生涯でもっとも旺盛な制作活動を行っており、15か月で300点を超える油絵やデッサンを描きました。一方でアルルは、音楽グループの**ジプシー・キングス**や**チコ&ザ・ジプシーズ**、ファッションデザイナーの**クリスチャン・ラクロワ**、作家の**イヴァン・オドゥアール**、写真家の**ルシアン・クレルグ**の町でもあり、作家、クリエイター、アーティストにとって**インスピレーション**を掻き立てる居心地のよい場所となっています。

また、独自の言語、民俗衣装、伝統的な祭りをもつことからアルルは**プロヴァンス文化**の中心地となっています。四季を通じて数多くのイベントが開催されており、**写真、音楽、文学、演劇、闘牛**を愛する人びとを魅了しています。

暮らしやすく、美味しい食べ物と一年を通じて発見に満ちた多様な景観をもつアルルは、南仏の町の典型といえるでしょう。

アルルは2014年新しくなります:

- アルル **ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ財団**の公開、
- 県立古代アルル博物館の増築、世界で最も保存状態の良い長さ31mの古代ローマ船舶の展示。
- 新たな作品の展示で**カマルグ博物館**の再オープン。
- アルル出身スタイリストでデザイナーの**クリスチャン・ラクロワ**によって完全改装された**ジュール・セザール ホテル4\***、4月末より再オープン。

プレスお問い合わせ : Francine RIOU - [f.riou@arlestourisme.com](mailto:f.riou@arlestourisme.com)

04 90 18 41 24 – 06 87 56 10 71

## アルルの何が変わったのでしょうか？

### 県立古代アルル博物館の増築

2013年10月4日に県立古代アルル博物館は800㎡の新しい翼に2010年ローヌ河から上がった古代ローマの船を迎え公開致しました。世界で最も良い状態で保存されている長さ31mの底が平らな船舶です。この船は引き船専用帆柱をまっすぐに立て、石造りの収集品とその他様々な物品と共に、特別に構築された溝に実際に航行されている状態で展示されています。船アルル - ローズ3は「国宝」として登録されております。その他、この新しい翼には航海、河川 - 海上商業、港やそれらの職業にまつわる480の展示品が公開されております。

### アルル ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ財団の公開

アルル ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ財団は、2014年4月7日、レオター・ド・ドニーヌ邸跡を展示会場として公開致します。2階建てで1000㎡以上の広さがあります。この財団は切っても切れないヴァン・ゴッホ作品とアルルの繋がり活発な活動の場となり、芸術や今日の絵画の話題や討論にうってつけの場所となるでしょう。

### カマルグ博物館の再オープン

2013年10月27日、博物館は一年かけての改修工事の後開館致しました。ローヌ三角洲、その整備の歴史を語り、19世紀からの移住してきた人々の足跡をたどる新しい展示「カマルグの水の流れ、歳月の移ろい *Le fil de l'eau... le fil du temps en Camargue*」を開催しております。この展示は、カマルグの独自の地域性の調査、自然の均衡、そこに住む人々の郷土への強い感情など彼の証言をもとに描かれています。展示会の「歳月の移ろい」のパートでは、カマルグの過去から現代に受け継がれた文化遺産や自然遺産のあるがままの姿に光をあてます。「水の流れ」のパートではカマルグの現在を音と映像で紹介します。「映像でたどるカマルグ」のコーナーでは、博物館が所有する写真のコレクションとカマルグで撮影された映画を見ることができます。

### ジュール・セザール ホテル4\* Hôtel Jules César の4月末より再オープン

ジュール・セザール ホテルは2013年9月30日に工事の為、一旦閉館されました。アルルの出身のスタイリストでデザイナーのクリスチャン・ラクロワが改装を任されました。

## アルル 芸術と歴史の町

発掘調査から古代のアルルにはケルト人の集落があり、マッサリア(マルセイユ)にいたギリシア人に植民地化されていたことがわかっています。その後、マッサリアの勢力とローマ帝国のカエサル軍との戦いを通じてこの植民地支配に終止符が打たれました。そしてその時以降(紀元前 46 年～)アルルに大々的な建造物がつくられはじめます。アウグストゥス帝の在位中(紀元前 44 年～紀元 14 年)に町は「*Paterna Arelate Sextanorum*(我が父により建設された植民地)」の名称を授けられました。コンスタンティヌス帝時代には宮殿がつくられ(313 年)、経済的にも文化的にも大きな発展を遂げます。ローマ帝国期にアルルにはおよそ 5 万人が暮らしていたとされています。

アルル市には国が指定した 112 の重要文化財があります。1981 年には市内にあるローマ遺跡とロマネスク様式建造物群が UNESCO の世界遺産に登録されました。その文化遺産の密度の濃さは町の規模や財源をはるかに超えるものですが、それでもサイトのほとんどを市が管理しています。アルルはほかの 30 ほどの都市とともに、ヨーロッパ文化都市協会 *Alliance des Villes Européennes de la Culture (Avec)* のメンバーとなっています。

### 古代ローマの遺跡

#### ・円形闘技場 *l'amphithéâtre*

紀元 1 世紀末に建設された 34 列の階段席を擁する巨大な楕円形の施設で、円形闘技場としては世界第 20 位の大きさを誇ります。現在でも 12,000 人弱の観客を収容することができ、毎年、闘牛ショーなどが盛大に開催されています。

#### ・古代劇場 *le théâtre antique*

円形闘技場の西にあり、紀元前 1 世紀末、アウグストゥス帝の治世下に建設されました。現在でも夏のあいだ、イベントの特別な舞台として利用されています。

#### ・地下回廊とフォーラム *les cryptoportiques du forum*

町の中心地にある壮大な地下回廊で、紀元前 30～20 年に建設されました。

#### ・コンスタンティヌス帝の公衆浴場 *les thermes de Constantin*

トリーア(ドイツ)にある同帝の大浴場を彷彿させる 4 世紀につくられた建造物です。

#### ・アリスカン *les Alyscamps*

キリスト教のもっとも美しい墓所の一つです。石棺が並んだその並木道はゴッホの絵によって永遠に人びとの記憶に刻まれることになりました。

プレスお問い合わせ : Francine RIOU - [f.riou@arlestourisme.com](mailto:f.riou@arlestourisme.com)

04 90 18 41 24 – 06 87 56 10 71

## ロマネスク様式および古典様式の建造物

### . サン・トロフィーム教会 l'église Saint Trophime

7 世紀に建立され、プロヴァンス・ロマネスク建築の特徴を余すところなく備えている教会堂です。正面の扉口はキリストの祝福のもとに行われる最後の審判や、天国と地獄を想起させる素晴らしい彫刻で飾られています。

### . サン・トロフィーム教会の回廊 le cloître Saint Trophime

7 世紀に建てられ、その多彩な彫刻と柱頭からプロヴァンス地方を代表する回廊となっています。

### . 市庁舎 l'Hôtel de Ville

ヴェルサイユ宮殿を設計した建築家ジュール・アルドゥアン＝マンサールの図面をもとに 1657 年にジャック・ペトレによって設計されました。この建物を有名にしているのは、美しい玄関ホールを飾る、他所では見られない扁平な形状をしたロマネスク様式の円天井です。

### . 歴史ある邸宅

壮大な古代遺跡の陰に埋もれがちですが、アルルには歴史ある壮麗な館が 50 ほど残っており、異彩を放っています。

- グリュ邸 l'hôtel de Grille (17 世紀)
- ゴッホ財団が入っているリュッペ邸 l'hôtel de Luppé
- カステイヨン邸 l'hôtel de Castillon (17 世紀)
- 国立高等写真学校 l'Ecole nationale de la photographie が入っているキクラン・ド・ボージュ邸 l'hôtel Quiqueran de Beaujeu

## アルル ミュージアムの町

アルルの美術館や博物館は過去のオブジェや作品を保管するだけにとどまらず、伝統的あるいは現代的で多種多彩な映像や表現物を訪れる人に紹介しています。

アルルには注目すべきミュージアムが三つあります。

### 県立古代アルル博物館 LE MUSÉE DEPARTEMENTAL DE L'ARLES ANTIQUE

歴史地区の近く、ローマの円形闘技場跡に建設され、1995年にオープンしました。非常に現代的な建物のなかに入っていますが、収められているのはアルルが誇る考古学のコレクションの数々です。

コレクションはローマ時代の遺物が中心で、彫刻、モザイク、美しい装飾石棺群、多数の工芸品のほか、紀元4世紀のアルルの町並みを再現したレプリカなど壮大な複製品を目にすることができます。博物館の公共スペースはテーマを時系列に追う鑑賞コースを中心に、見学者が館内をめぐりやすいようデザインされています。

アルルの町とそこに暮らした人びと、さらにはこの町の建築物の過去の記憶に触れたいと願う人にとっては必見の博物館であり、アルルの歴史的変遷を理解するためには市内に残る壮大な遺跡とあわせて当博物館を見学することをおすすめします。

2002年には、20年前からローヌ河に考古学者の潜水調査によって発見されたものを中心とした新たな展示がされました。カエサルと思われる大理石やブロンズの豪勢な肖像彫刻や、横顔を刻ませたコインなど重要なものです。

当博物館はコレクションの増加と2013年10月4日に当博物館は **800 m<sup>2</sup>の新しい翼**には、ローヌ河の三角州と地中海の間の航海、河川—海上商業、港やそれらの職業にまつわる展示を開始しました。西暦50~60年あたりの全長31mのローマ時代の平底船 Arles-Rhône 3 の他、**480の展示品**が「漂着物」、「港と港で働く人びと」、「アルルとローマ世界の交易および航海」の三つのテーマのもとに紹介されています。

展示・文化イベントは活動プログラムを通じて半年ごとに更新されています。

Presqu'île du Cirque Romain – 13200 ARLES

☎ 04 13 31 51 03 - ☎ 04 90 18 88 93

[www.arles-antique.cq13.fr](http://www.arles-antique.cq13.fr)

### レアチュール美術館 LE MUSÉE RÉATTU

ローヌ河のほとりに建つ旧マルタ騎士団修道院の内部に入っている美術館で、17世紀~19世紀の美術品、ピカソからの寄贈品(デッサンと絵画)および現代アートの作品が収められています。特

プレスお問い合わせ : Francine RIOU - [f.riou@arlestourisme.com](mailto:f.riou@arlestourisme.com)

04 90 18 41 24 – 06 87 56 10 71

別展(年 3 回ほど開催)、購入品、イベントなどを通じて、美術館は現在、おもに現代のクリエイションを紹介する活動に力を入れています。

1868 年にジャック・レアチューの作品と彼のコレクションを中心に創設された当美術館は第二次世界大戦後、ザッキン、リシエ、そしてとくにはピカソの作品を展示することで現代アートとの関係を深めました。1965 年、写真家のルシアン・クレルグが学芸員のジャン＝モーリス・ルケットに、フランスの美術館では初めての試みとなる写真コレクションの創設を提案しました(オリジナル作品 3,500 点)。ピカソは 1971 年、当美術館における自身の 2 回目の展覧会を開催したのち、彼の“日記”ともいえる 57 点のデッサンをアルル市に寄贈し、アルルに対する想いを確かなものにししました。

10 rue du Grand Prieuré – 13200 ARLES

☎ 04 90 49 37 58 - 📠 04 90 49 36 97

[www.museereattu.arles.fr](http://www.museereattu.arles.fr) - [musee.reattu@ville-arles.fr](mailto:musee.reattu@ville-arles.fr)

### アルラタン博物館 LE MUSEON ARLATEN

県立の郷土史博物館で、15 世紀につくられたラヴァル・カステラーヌ邸の内部に入っています。この博物館は 1896 年、愛郷精神に溢れる詩人、フレデリック・ミストラルによって創設され、調度品、道具、信仰や迷信にまつわる品々などを展示し、19 世紀のプロヴァンス人の暮らしを今に伝えています。

**当博物館は 2017 年まで工事のため閉館しています。**しかし閉館以来、博物館と一般の人びととの関係が逆転しました。博物館が見学客を迎えるのではなく、博物館が人びとに会いに行くようになったのです。そうした館外での展示プログラムを通じて、博物館のコレクションやテーマに新たな角度からアプローチすることや、新しい考察ツールを試したり、新たな試みに取り組んだり、改修後の博物館を宣伝したりすることが可能となっています。

29-31 rue de la République - 13200 ARLES

☎ 04 90 93 58 11 - 📠 04 90 52 52 44

[museon.arlaten@cq13.fr](mailto:museon.arlaten@cq13.fr) - [www.museonarlaten.fr](http://www.museonarlaten.fr)

プレスお問い合わせ : Francine RIOU - [f.riou@arlestourisme.com](mailto:f.riou@arlestourisme.com)

04 90 18 41 24 – 06 87 56 10 71

## アルル ゴッホの光に包まれた町

今日、アルルの名はゴッホの名前と分かちがたく結びついています。アルルとこの町に降り注ぐ明るい陽射しを話題にすると、この巨匠の絵を思い浮かべない人はいないでしょう。南仏でゴッホを魅了したのはまさにこの光でした。彼は 1888 年 2 月のある日、屋外の光と内なる啓示を求めてここアルルにやって来ました。そして南仏の光に包まれながら熱にでも浮かされたように制作に没頭する日々が始まります。アルルに滞在した期間は彼にとって生涯でもっとも旺盛な制作活動を行った時期と重なっており、15 か月のあいだに 300 点を超える油絵やデッサンを描きました。これらの作品は絵画史のもっとも輝かしいページを形作っています。

ゴッホのインスピレーションを掻き立てた風景のなかには「夜のカフェ」や施療院の庭(エスパス・ヴァン・ゴッホ)など現存しているものや、再現されたものがあります。1889 年 5 月にゴッホはサン・レミ・ド・プロヴァンスにある療養院に入るためにアルルを去りましたが、その名はつねにアルルと深く結びついています。

市内にゴッホの油絵は一点もありませんが、その影は町のいたるところで感じられます。

### ゴッホの足跡をたどる散策コース

アルル市内ではゴッホがイーゼルを構えた場所にそれぞれの複製画が入った案内板が置かれています。案内板の設置場所(およそ 10 か所):フォーラム広場(夜のカフェテラス)、トランクタイユ橋(トランクタイユ橋の階段)、ローヌ河岸(ローヌ河の星月夜)、ラマルテーヌ広場(黄色い家)、ミレイユ通り(古い風車小屋)、リス大通りの庭園(公園)、エスパス・ヴァン・ゴッホ(アルルの病院の中庭)、ブックにあるアルル運河沿いの道(ラングロワの跳ね橋。なおこの橋は一般に「ゴッホの跳ね橋」と呼ばれています)。円形闘技場やアリスカンも、ゴッホの幾枚もの作品で人びとの記憶に永遠に刻まれることになりました。

### アルル ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ財団 LA FONDATION VINCENT VAN GOGH D'ARLES

アルル ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ財団は、レオトー・ド・ドニーヌ邸跡に2階にまたがり1000㎡以上の展示会場をオープンします。

アルル ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ財団は現在芸術への彼の作品が与える響きに注目しながらオランダ巨匠の芸術遺産の価値づけに没頭することを目的としています。現代アーティストとのヴァン・ゴッホ絵画展望の位置づけは疑問と熟慮に向かって豊かな会話を生むことでしょう。

財団は切っても切れないヴァン・ゴッホ作品とアルルの繋がりの活発な活動の場であり、芸術や今日の絵画の話題や討論にうってつけの場所となるでしょう。

2014年4月7日より一般公開。

35 rue du Docteur Fanton – 13200 Arles  
[fondwga@wanadoo.fr](mailto:fondwga@wanadoo.fr) - <http://www.fondation-vincentvangogh-arles.org>

プレスお問い合わせ : Francine RIOU - [f.riou@arlestourisme.com](mailto:f.riou@arlestourisme.com)  
04 90 18 41 24 – 06 87 56 10 71

## アルル カマルグの中心地

### ローヌ河の三角州の町

アルルはローヌ河がグラン・ローヌとプティ・ローヌに分岐する場所に位置しており、広大な湿地帯、カマルグへの玄関口として、河川交通と交易の戦略的要衝となっています。1991年よりアルルでは海やローヌ河を航行する3,000トン級の船舶を迎え入れることが可能となりました。地中海の玄関口でこれだけの規模の船を寄港させることができるのはローヌ河ではアルル港だけです。なお、アルル港はローヌ河を航行する高級クルージング船が必ず立ち寄る港となっています(ローマからアルルを経由してアヴィニョンへ向かうクルージングなど)。アルルはまた、西ヨーロッパの二つの幹線道路(「ローヌ渓谷の道」と「イタリアとスペインを結ぶ道」)が交わる場所に位置するため、戦略的に重要な地位を占めています

### カマルグ La Camargue

カマルグは四方八方から風が吹き渡る開放的な風土をもちながらも、そこに一番強く漂うのはやはり地中海の香りです。とはいえ、ここは地中海の水だけでなく、二股に分れてこの大地をぐるりと取り囲むローヌ河の淡水の恩恵も得ています。川の滔々とした流れが一年を通じてカマルグに淡水の恵みをもたらしているのです。三角州の湿地帯は季節ごとに姿を変え、沼、ラグーン、池、沼沢は気象条件に応じて、多少なりとも塩分を含むその水を混じり合せます。ローヌ河の三角州が形成するカマルグはフランス最大の湿地帯であり、厳しい自然にさらされた大地です。ここではしばしば強烈な風が吹き、ときに洪水を引き起こす嵐に見舞われます。一方で夏にはこの風が内陸部での干ばつを招き、沿岸地帯を侵食し、塩が結晶した白い景観をつくりだしています。果てしなく続く沼や湿地、砂丘、ラグーン、人家の疎らな広大な浜——カマルグには地平線まで見渡せる風景が広がっています。1平方キロメートルあたりの人口密度は10人。これはフランスの平均値の10分の1です。このように人の手の入っていない自然空間もまた、カマルグ地方自然公園が誇る宝の一つに数えられています。同公園は100,000ヘクタールを超える面積をもち、その海岸線は75kmにわたって伸びています。その気候条件から同公園内では稲作、葦の栽培、塩の生産といった独自の産業が発展してきました。2000年に取得したPGI(地理的表示保護)の認証を通じて「カマルグ米」の呼称がEU全土で守られている一方で、稲の栽培はカマルグの生態系を守る環境に配慮した切り札となっています。16世紀から始まった稲作は1940年代に大きな発展を遂げました。カマルグ牛の肥育もここでしか見られないユニークなものであり、その肉は現在AOC(原産地統制呼称)の認証を受けています。

広大な農地が広がり、かつ自然保護区が数多くあることから、カマルグはこの地を知らない人にとってはアクセスが難しい場所です。そんなカマルグを観光する最良の方法は、地元の人と同じように馬を駆ることです。カマルグ馬は非常に頑強で、とくに湿地帯で抜群の強さを発揮します。砂地を好み、海沿いの塩気の多い環境をものともせず、少ない餌で満足します。カマルグ馬は地元の多くの産業を支える天の恵みであり、ガルディアン(騎乗の牧童)の仕事には欠かせない存在です。

プレスお問い合わせ : Francine RIOU - [f.riou@arlestourisme.com](mailto:f.riou@arlestourisme.com)

04 90 18 41 24 – 06 87 56 10 71

沿岸部では砂丘と砂浜が、絶えず変化する不安定な姿でありながらも海と大地を分かち自然の堤防を形作っています。

カマルグでは多くのサイトが一般に開放されているため、その豊かな遺産を守りながら大自然に触れることができます。サイトのいくつかでは博物学や鳥類に詳しいガイドによる発見ツアーが定期的に開催されています。

### ラ・パリサード LE DOMAINE DE LA PALISSADE

ラ・パリサードはグラン・ローヌ河の右岸、サラン・ド・ジローと沿岸部のあいだに 702ha に渡って広がっています。ラ・パリサードの全体がカマルグ低地を河川水や海水から守る堤防の外側にあるため、ここは固有の動植物が見られる生態学上とても貴重な場所となっています。また、三角州の自然変遷を伝える最後の地ともなっています。かつてはもっぱら畜産業と漁業、そして狩猟に利用されていたこの地を 1976 年、沿岸保存所(Conservatoire du littoral)が取得しました。現在では整備された道を歩いて、あるいは馬に乗ってこの地の魅力に触れることができます。また、自然を紹介する展示物が用意されているほか、ピクニックを楽しむための木漏れ日広場も設けられています。

#### ラ・パリサード La Palissade

BP 5 CD 36 - 13129 Salin de Giraud

☎ 04 42 86 81 28 - ☎ 04 42 48 82 11

[palissade@free.fr](mailto:palissade@free.fr) - [www.conservatoire-du-littoral.fr](http://www.conservatoire-du-littoral.fr)

### 国立自然保護区 マレ・デュ・ヴィゲラ LES MARAIS DU VIGUEIRAT

マレ・デュ・ヴィゲラはカマルグとクローという二つの特徴的な生態系をもつ地域の境界に広がる湿原で、類まれな生物多様性を保持しています。

手つかずの自然が残るこの広大な湿原は沿岸保存所がプロヴァンス・アルプ・コート・ダジュール地方において取得した最大の地域であり、**2011 年 11 月**に国の自然保護区に指定されました。ここには 286 種の鳥類(およそ 20,000 羽のカモ類)と 641 種の植物が生息しています。また、カマルグ特有の「ガルディアン」と呼ばれる馬に乗った牧童が率いる牛や馬の群れにも出会えます。

マレ・デュ・ヴィゲラでは博物学に詳しいガイドによる見学ツアーが開催されています。ツアーでは四カ所の観察所と二つの塔をめぐり、動物たちの自然の姿を追います。四輪馬車で移動するツアーも開催されています。さらに、随所に動物観察所が整備されている遊歩道を歩き、思い思いに観光することも可能です。自然や動植物に関する情報をまとめたパンフレットも用意されています。

遊歩道のうち「カバンヌ(小屋)の道 sentier des Cabanes」は、杭の上に設けられた板張りの道になっているので、家族連れや身体の不自由な方に最適です。途中で設けられている 8 つの小屋には湿原にやって来る動物たちを待ち伏せしている気にさせるインタラクティブな仕掛けが用意されています。

さらに、ユニークで楽しいアクティビティとして、プロの漁師によるアメリカザリガニ釣りのデモンストレーションが行われています。アメリカザリガニは侵略的外来種であり、釣ったものはその場で試食されます。

プレスお問い合わせ : Francine RIOU - [f.riou@arlestourisme.com](mailto:f.riou@arlestourisme.com)

04 90 18 41 24 - 06 87 56 10 71

地球に対する責任を強く自覚しているマレ・デュ・ヴィゲラでは、人と自然を守るというメッセージのもとに、水、大気、エネルギーに関する活動を積極的に推し進めています。  
フランス WWF に協賛しているマレ・デュ・ヴィゲラは、持続可能な観光と環境責任の分野の模範的サイトとなっています。

Les Marais du Vigueirat - Mas Thibert -13104 Arles - ☎ 04 90 98 70 91  
[marais-vigueirat@espaces-naturels.fr](mailto:marais-vigueirat@espaces-naturels.fr) - [www.marais-vigueirat.reserves-naturelles.fr](http://www.marais-vigueirat.reserves-naturelles.fr)

### カマルグ博物館 LE MUSEE DE LA CAMARGUE

カマルグ自然公園が管理し、マ・デュ・ポン・ド・ルスティの羊舎を改修してつくられたカマルグ博物館は、ローヌ河の三角州における人間の営みの変遷を今に伝えています。稲作、畜産、狩猟、漁業、塩の精製といった伝統的な産業から、三角州における築堤や揚水施設および灌漑網の整備といった大規模事業に至るカマルグの歴史を紹介し、この地に対するグローバルな視点を見学者に提案しています。

2009年、当博物館の創立30周年を機にジプシーの守護聖人である聖女サラをテーマにした現代ポピュラーアートの作品群が購入されました。また2010年4月には展覧会「カマルグと交差するレンズ」を通じて、20世紀前半の写真家カロール・ノードとガストン・ブザンケの作品をデジタル化するプロジェクトの最初の成果を発表しました。博物館の見学と合わせてマ・デュ・ポン・ド・ルスティの遊歩道をめぐれば、この地に対する理解がより深まることでしょう。全長3.5kmの遊歩道は農地を横切って伸びており、何種類もの土地とその利用法を目にすることができます。

2013年10月27日、博物館は一年かけての改修工事の後開館致しました。ローヌ三角州、その整備の歴史を語り、19世紀からの移住してきた人々の足跡をたどる新しい展示「カマルグの水の流れ、歳月の移ろい Le fil de l'eau... le fil du temps en Camargue」を開催しております。この展示は、カマルグの独自の地域性の調査、自然の均衡、そこに住む人々の郷土への強い感情など彼の証言をもとに描かれています。

展覧会の「歳月の移ろい」のパートでは、カマルグの過去から現代に受け継がれた文化遺産や自然遺産のあるがままの姿に光をあてます。

「水の流れ」のパートではカマルグの現在を音と映像で紹介します。「映像でたどるカマルグ」のコーナーでは、博物館が所有する写真のコレクションとカマルグで撮影された映画を見ることが出来ます。

2013年2月、博物館の見学を補完する散策路の入り口に日本人アーティスト、川俣正が手がけた木製の観察タワー「ホライズン」が完成し、稲田や葦沼、塩生植物が生えた草地、湿原などが広がる風景を高所から見晴せるようになりました。

Mas du Pont de Rousty - 13200 ARLES - ☎ 04 90 9710 28 - ☎ 04 90 97 19 20  
[musee@parc-camarque.fr](mailto:musee@parc-camarque.fr) - [www.parc-camarque.fr](http://www.parc-camarque.fr)

プレスお問い合わせ : Francine RIOU - [f.riou@arlestourisme.com](mailto:f.riou@arlestourisme.com)  
04 90 18 41 24 - 06 87 56 10 71



### カマルグ国立自然保護区インフォメーションセンター ラ・カプリエー LA CAPELIERE

カマルグ国立自然保護区はカマルグの中心部の 13,000 ヘクタールを占め、ヨーロッパで最大の面積をもつ湿地保護区に数えられています。この地続きの広大な土地はアルル市とサント・マリー・ド・ラ・メール市にまたがっており、総合的な保全措置を通じて守られています。当保護区の特異性と遺産としての国際的な価値は、生き物の生息環境とそこに暮らす種の多様性(276 種の鳥類うち 258 種が貴重種)や、さらにはその生態系の働きから生み出されています。

カマルグ国立自然保護区インフォメーションセンター ラ・カプリエール  
Centre d'information de la Réserve Nationale de Camargue  
La Capelière – 13200 Arles - ☎ 04 90 9700 97- 📠 04 90 97 01 44  
[www.reserve-camargue.org](http://www.reserve-camargue.org) - [info@reserve-camargue.org](mailto:info@reserve-camargue.org)

### ポン・ド・ゴー鳥類公園 PARC ORNITHOLOGIQUE DE PONT DE GAU

サント・マリー・ド・ラ・メールから 4km のところにあるこの公園では、60 ヘクタールの自然空間を散策しながら、カマルグの野生動物と植物を観察することができます。

ポン・ド・ゴー鳥類公園  
Parc Ornithologique de Pont de Gau – Route d'Arles - 13460 Saintes-Maries de la Mer - ☎ 04 90 9782 62- 📠 04 90 97 74 77  
[info@parcornithologique.com](mailto:info@parcornithologique.com) – [www.parcornithologique.com](http://www.parcornithologique.com)

アルルには、28km にも及ぶ細かい砂の非常に美しい浜辺もあります。地中海沿岸にある自然の浜辺では最も広いものです。(ボーデュック Beauduc とピエマンソン Piémanson)

プレスお問い合わせ : Francine RIOU - [f.riou@arlestourisme.com](mailto:f.riou@arlestourisme.com)  
04 90 18 41 24 – 06 87 56 10 71

## アルル 伝統の町

言語、民俗衣装、伝統的な祭りからアルルはプロヴァンス文化の中心地となっています。シャトーブリアン、デュマ、フローベール、メリメなどアルルを旅した著名人たちが、「世界一美しい」と称されるアルルの女性を賞賛しています。19世紀初頭に体系化されたアルルの女性の民俗衣装は、それぞれに深い意味をもつエレメントから構成されています。アルルの人びとは変化を認めながらもこのようなエレメントから成る伝統の衣装を大切に守り、次の世代へ伝えようと努めています。ガルディアン(騎乗の牧童)とアルルの民俗衣装に身を包んだ女性は、アルル地方の季節を刻む伝統行事に欠かせない存在となっています。

アルルとその近辺の村々の暮らしにアクセントをつけているのがカマルグ式闘牛(クルス)です。闘牛は毎年4月初めから10月末まで開催され、多くの闘牛ファンを魅了しています。カマルグ式闘牛の歴史は古く、その起源は1402年にまで遡ります。もっとも格式の高いコカルド・ドールとトロフェ・デ・ザスが開催される日は、ラズトゥール(闘牛士)や興行師、そしてとくには主役であるカマルグ雄牛にとって栄光の日となります。円形闘技場ではスペイン式闘牛(コリダ)も盛大に行われており、アルルはフランスにおける闘牛の中心地となっています。

### 主な伝統の祭り

#### 馬のレース クルス・ド・サタン La Course de Satin

クルス・ド・サタンが初めて開催されたのは1529年のことです。

アルル祝祭委員会ではカマルグ種の最高馬のみを集めたこのレースを保全することで古くからある伝統を後世に残そうとしています。レースは鞍なしの騎乗で争われます。

優勝者には名誉ある金糸の刺繍がついたサテンの巻き布が授与されます。なお、古い時代の巻き布の一枚がアルラタン博物館に展示されています。

優勝者は一年間、この巻き布を保管し、もし続けて三回勝者となれば、それをみずからの所有物とすることができます。

#### 牧童祭 La fête des Gardians

毎年5月1日に牧童祭が開催されます。まずは「ガルディアン」と呼ばれるカマルグ版カーボーイがアルル市内のリス大通りに集結し町をパレードします。一行はそのままフォーラム広場へ向かいフレデリック・ミストラルの銅像に挨拶します。その後、ガルディアンたちがマジョール教会に建つ騎乗姿の聖ジョルジュ像を取り囲むと(聖ジョルジュは牧童の守護聖人)、プロヴァンス語による大ミサが執り行われます。午後には円形闘技場でさまざまな催し物が開催されます。1512年に創設され、2012年に500周年を迎えた牧童信心会は現存するフランス最古の互助組合となっています。

プレスお問い合わせ : Francine RIOU - [f.riou@arlestourisme.com](mailto:f.riou@arlestourisme.com)

04 90 18 41 24 – 06 87 56 10 71

## 「アルルの女王」の選出 L'élection de la Reine d'Arles

アルルの女王は三年に一度、5月1日に選出されます(第二次世界大戦中は中断)。第22代女王は2014年5月1日に複数の候補者のなかから選ばれることになっています。女王となる若い女性を決める方法は1930年にアルル祝祭委員会により制定され、いくつかの改定を経て現在に至っています。それによると女王はアルル生まれか、あるいはアルル地方で生まれた女性でなければならず、任期中は侍女たちとともに、プロヴァンスの文化、伝統衣装、言語の守り手としての役割を果たすことが求められます。その“戴冠式”は7月初めに開催されるアルル祭りの際に古代劇場で行われることが慣例となっています。

## アルル祭り Les fêtes d'Arles

- ▶ ペグラードLa Pegoulado : 衣装祭りに先立つ金曜日の夜、伝統的な衣装を着た1,000人以上の参加者が長い行列をつくりアルル市内のリス大通りを練り歩きます。
- ▶ 衣装祭りLa fête du Costume : 7月の第1日曜日に開催。民俗衣装を着た人びとが市内を練り歩いたのち、古代劇場に集結します。

カマルグ式闘牛「ラ・コカルド・ドールLa cocarde d'or」: レースは衣装祭りの翌日(月曜日)に開催されます。闘牛シーズン最大の花形イベントで、カマルグ式闘牛のなかでももっとも格式の高いものです。

## 初穂祭 Les fêtes des prémices du riz

毎年夏の終わりになると、アルルはこの地方の重要な経済活動にちなんだイベント、つまり初穂祭を開催します。そうして米の収穫の直前に、この世界中で栽培されている穀物を讃えるのです。地区、村、団体、家族ごとに稲穂で飾った山車を準備し、9月の初めの土曜日の夜と日曜日の朝に通りを練り歩きます。

## 春の闘牛 La Feria de Pâques

春の闘牛(復活祭の闘牛)はフランスの闘牛シーズンの幕開けを告げるイベントです。このお祭りを楽しむためにおよそ50万人がアルルを訪れ、6万人が円形闘技場で闘牛を観戦します。会期中は市中心部のいたるところがお祭り騒ぎで盛り上がります。30軒ほどのボデガ(ワイナリー)がオープンするので、闘牛が終わるや熱烈なファンがそこに集まり、サンテリアを飲みながら夜を楽しみます。さらに、闘牛ファンのグループや音楽バンドらが円形闘技場の周辺や市内の各所で祭りを賑やかに演出します。

## 初穂の闘牛 La Feria du riz、馬フェスティバル Le festival du Cheval、カマルグ・グルマンド Camargue gourmande

初穂の闘牛は9月の第2週末に実施されます。

2005年9月よりこの闘牛は、カマルグ米とアルルの特産物(オリーブ、オリーブオイル、ソーセージ、AOCに認証された牛肉、カマルグの塩、アルル地方の工芸品、カマルグの稲藁からつくった紙など)とアルルの工芸品(カマルグのブーツおよび鞍、米を原料とする塗料な

プレスお問い合わせ : Francine RIOU - [f.riou@arlestourisme.com](mailto:f.riou@arlestourisme.com)

04 90 18 41 24 - 06 87 56 10 71

ど)を紹介するフードフェスティバル「カマルグ・グルマンド」および馬フェスティバルと合同で開催されています。馬フェスティバルでは土曜日の夜、円形闘技場で無料のショーを実施します。

### プロヴァンス地方のクリスマス

プロヴァンス地方の伝統的なクリスマスは 12 月 4 日の聖バルブ(聖バルバラ)の日から始まり、2 月 2 日のろうそく祝別の日まで続きます。この祝祭の期間をプロヴァンス地方では「カレンダー」と呼んでいます。

#### 聖バルバラの麦 Le Blé de la Sainte Barbe :

三枚のソーサーに湿ったコットンを敷き、そこに麦あるいはレンズ豆の種を撒く伝統行事です。数日後、青々とした芽が真っ直ぐに伸びれば来たる年は豊作だとされています。新芽は家庭で飾るクレーシュ(人形でキリストの降誕場面を表したもの)のなかに並べられます。

#### カチョ・フィオ Le cacho Fio :

クリスマスイブの晩餐の直前に行われる儀式です。儀式では一家の最年少者と最年長者が果樹から切り出した薪を一本選び、テーブルの周りを三周します。その後、「パペ(最長老)」が薪を暖炉に置き、プロヴァンス語で次のような祈りの言葉を発しながら温かいワインを薪に振りかけます。

« Cacho-fio (クリスマスの薪よ)  
 Bouto-fio (我らに火を与え給え)  
 Alègre, alègre (喜ぼう、喜ぼう)  
 Dièu nous alègre (神が喜びをお与えくださる)  
 Calèndo vèn, tout bèn vèn (クリスマスがやって来る、万事は順調)  
 Dièu nous fague la gràci de veire l'an que vèn (神よ、新しい年を迎えるお恵みを垂れ給え)  
 E se noun sian pas mai, que noun fuguen pas mens » (我らの数が増えぬなら、せめてその数が減らんことを)

#### グロ・スペ Le gros souper :

カチョ・フィオの儀式のあと、真夜中のミサに行く前にグロ・スペ(クリスマスイブの晩餐)を食べます。

グロ・スペはプロヴァンスの伝統にのっとり食卓に供さなければなりません。まずは三枚の白いテーブルクロスを敷き、そこに三本の白い燭台と麦を発芽させた聖バルブの三枚のソーサーを置きます。それらは三位一体と希望のシンボルとされています。料理は聖マリアの七つの苦しみを偲び、質素な七品で構成されます。それらはたいがい、家にある野菜などのあり合せの食

プレスお問い合わせ : Francine RIOU - [f.riou@arlestourisme.com](mailto:f.riou@arlestourisme.com)

04 90 18 41 24 – 06 87 56 10 71

材でつくられます。とはいえ、ピーツやセロリなどプロヴァンスの伝統的な野菜にアンショワヤード(アンチョビのディップ)を添えたものは必ず用意しなければなりません。

### 13 品のデザート Les 13 desserts :

真夜中のミサのあと、キリストの最後の晩餐の会食者(キリストと 12 人の使徒)と同じ数、つまり 13 品のデザートを食べます。

- 4 種のマンディアン: 干しイチジク(フランシスコ会を象徴)、アーモンド(同カルメル会)、干しブドウ(同ドミニコ会)、クルミ(同アウグスティヌス会)
- ナツメヤシ: 東方から来たキリストの象徴
- スガー: 白と黒のもの。白は純潔と善を、黒は穢れと悪を表している。
- オリーブオイルのフーガス(パンの一種)、またはポンプ・ア・ユイル(オリーブオイル入りのパン菓子)
- マルメロのペースト、またはフルーツの砂糖漬け
- オレイエット(耳の形をした揚げ菓子)
- 生のフルーツ: オレンジ、マンダリン、洋ナシ、ブドウ、保存しておいたハネデューメロン

### 真夜中のミサとパストラル les pastorales :

真夜中のミサは神の御子イエスの誕生を祝福するものです。プロヴァンス地方の歌を歌ってミサとパストラージュの儀式を演出します。パストラージュでは生まれたばかりの子羊が羊飼いに抱えられ、あるいは金色の荷車に載せられて神に奉納されます。

パストラルはキリスト降誕のシーンを再現した劇で、パストル(羊飼い)たちが神の御子イエスのいる馬小屋に向かって行進する場面を表現します。羊飼いたちはプロヴァンス地方の伝統衣装に身を包み、プロヴァンス語で歌い、語ります。劇はクリスマスの祭りの期間中上演されます。

### 公現祭 L'Epiphanie :

公現祭は東方の三博士(メルキオール、カスパール、バルタザール)が神の御子イエスが生まれた馬小屋を訪問したことを祝うものです。東方の三博士は羊飼いの星に導かれてガリラヤ地方のベツレヘムまでやって来ました。三人はイエスを前にひざまずき、それぞれ持参したものを贈ります。今日では三博士の訪問を「ガトー・デ・ロワ」と呼ばれるお菓子を食べて祝います。プロヴァンス地方の「ガトー・デ・ロワ」はフルーツ・コンフィを載せ、砂糖をまぶしたブリオッシュで、なかに豆とサントン人形が入っています。自分の取り分に豆が入っていた人が王に、サントン人形が入っていた人がその家来になります。

### ろうそく祝別の日 La Chandeleur :

プロヴァンス地方のクリスマスの伝統行事は、家々に飾られていたクレーシュを片づける「ろうそく祝別の日」で終わります。

プレスお問い合わせ : Francine RIOU - [f.riou@arlestourisme.com](mailto:f.riou@arlestourisme.com)

04 90 18 41 24 – 06 87 56 10 71

ろうそく祝別の日は聖母マリアの清めと、イエスが初めてユダヤ教の寺院に連れて行かれたことを祝うものです。プロヴァンス地方の伝統では祝福を受けるためにろうそくを教会に持っていき、その炎を消さずに家まで戻ることになっています。炎が消えるのは凶事のしるしだとされているのです。

家に帰るとクレープ作りが始まります。一枚目のクレープを焼くとき、片手にコインを一枚握りしめ、もう一方の手でクレープをひっくり返します。そしてコインをクレープに載せて巻き、翌年まで保管します。前の年のクレープは捨て、硬貨は貧しい人にあたえます。

### クレーシュ la crèche とサントン人形 les santons

サントンとはプロヴァンス語で「santoun」、すなわち「小さな聖人」を意味し、職人が愛情を込めて手作りした陶器の小さな人形を指します。

サントン人形はクリスマスを祝うために飾られるクレーシュの中央に飾られ、プロヴァンスの伝統と人びとや家族の暮らしを末永く後世へ伝える役割を果たしています。家庭のクレーシュではもともと、キリスト降誕にまつわる登場人物、つまりマリア、ヨセフ、神の御子イエス、そして東方の三博士だけしか飾りませんでした。

しかしプロヴァンス地方のサントン職人は、マルセイユの庶民が古くから従事してきた伝統的な職業や「パストラル」に登場する人物をヒントに人形をつくるようになりました。

職人は細部やポーズにとくにこだわりながら丹精込めて人形をつくっています。一つとして同じものがない緻密な造りから、人形には作り手それぞれの個性が反映されています

毎年2か月間、**国際サントン人形見本市**がサン・トロフィーム教会の回廊にて開催されます。2014年11月15日～2015年1月14日、100以上の出展があり、18～21世紀初めまで、300年4世紀にまたがるサントン人形とサントン職人の発展や歴史などがわかります。出展者はプロのサントン職人ですが、アマチュアの方が作ったサントン人形のコンクールも開かれます。

アルルは、エスパス・ヴァン・ゴッホにて**2014年11月15日、16日**に、この**国際サントン人形見本市**のオープニングセレモニーを行います。41名のアーティストがたくさんのイベントを用意しております。制作ワークショップ、鋳造物、絵付け、デモンストレーション、音楽、コーラスなど。9時～19時まで入場無料。

#### アルルのサントン工房の見学:

**エヴェリーヌ・リコール Evelyne Ricord** : サントン人形彫刻クリエイター。陶製サントン人形分野でフランス国家最優秀職人賞受賞。

6, Rue du Refuge - 13200 Arles - 06 24 61 71 69 - Uniquement sur RV.

**サントン・アンリ・ヴゾル Santons Henri Vezolles** : 各パーツをバラバラに制作し、あとで組み立てる造り方。自然な風合いの2～4色と酸化物による着色。装飾はスリップ(液状の粘土)にて。

14, Rond-point des arènes - 13200 Arles - 06 80 34 27 77

プレスお問い合わせ : Francine RIOU - [f.riou@arlestourisme.com](mailto:f.riou@arlestourisme.com)

04 90 18 41 24 - 06 87 56 10 71

## アルル 祭りと文化の町

アルルはそのロケーションから文化の十字路口に位置します。この町はつねに音楽、写真、文学などあらゆる分野のクリエイション活動において地中海の文化を取り入れてきました。アルルはまた、音楽グループのジプシー・キングスやチコ&ザ・ジプシーズ、ファッションデザイナーのクリスチャン・ラクロワ、作家のイヴァン・オドゥアール、写真家のルシアン・クレルグの町であり、さらには世界最大の写真イベント「アルル国際写真フェスティバル」や、出版社「アクト・シュド」やレコードレーベル「アルモニア・ムンディ」の町でもあり、作家、クリエイター、アーティストにとってインスピレーションが掻き立てられる居心地のよい場所となっています。

アルルでは地域ごとの、あるいは国内規模、国際規模の文化イベントが多数開催されています。

### アルル国際写真フェスティバル Les RENCONTRES d'ARLES 7月/8月/9月

1969年に創設されたこのフェスティバルによって、カンヌが映画の町とされているのと同様、アルルは写真の町として知られるようになりました。当フェスティバルは何よりも**現代的でバライティーに富んだ芸術プログラム**を特徴とし、毎夏、アルル市内にある20の歴史的サイトで60ほどの展覧会を開催しています(展示面積は15,000 m<sup>2</sup>)。7月初旬のオープニング週間では数々の展示イベントのほか、古代劇場にて映写会やスペクタクルのタペも催されます。

当フェスティバルは現在、教育・研修活動でも有名で、とくに写真の変遷や写真の現代的課題をめぐるシンポジウム、会議、討論会、ガイド付き鑑賞会、世界的識者による作品集の解説、著名な写真家によるワークショップなどを行っています。

また9月の新年度シーズンには「写真で新年度 la Rentrée en Images」と題した一日を設け、小学生からグランドゼコール予備学校の生徒まで7,500人を対象に教育的ワークショップを開催し、写真の鑑賞法を手ほどきします。

[www.rencontres-arles.com](http://www.rencontres-arles.com)

### 国立高等写真学校 ECOLE NATIONALE DE LA PHOTOGRAPHIE

1982年には円形闘技場通り rue des Arènes にある壮麗なキクラン・ド・ボージュ邸内に国立高等写真学校が開校しました。これは写真を専門とするフランスで唯一の国立高等学校です。

当学校と国際写真フェスティバルを通じて、アルルで写真関連の先駆的な試みが数多く誕生することとなりました。

2001年より毎年、アルルでは**ヌード写真フェスティバル le FESTIVAL DE LA PHOTO DE NU**も開催されています。当フェスティバルではヨーロッパの写真家たちの作品を紹介する展覧会を開催するほか、毎回アルルの写真家一名をゲストに招きます。

プレスお問い合わせ : Francine RIOU - [f.riou@arlestourisme.com](mailto:f.riou@arlestourisme.com)

04 90 18 41 24 – 06 87 56 10 71

## レ・シュッド・ア・アルル Les SUDS, à ARLES ワールドミュージックフェスティバル 7月第2週

200人を超えるアーティストを迎え、朝10時から翌朝4時(!)まで繰り広げられるフレンドリーな音楽フェスで、会期中の1週間は町がフランス内外の音楽に満たされます。このときばかりは古いアルルの町並みが新しい異国の雰囲気をもとに、訪れた人を市内の音楽ステージからローヌ河岸で開かれるアペロ・デクーヴェルト(飲み物を片手にアーティストやファンが交流する催し)へと誘います。そのほかフェスティバルでは、エスパス・ヴァン・ゴッホのアーケードの下での音楽を聴きながらのシエスタ、県立アルル古代博物館で音楽について語る「サロン・ド・ミュージック」、木陰が心地よい広場で開催されるコンサート、美しい大司教館の中庭で内省的な音楽に耳を澄ます「大切なひととき」、星空の下、古代劇場で行われる壮大なコンサート「ソワレ・シュッド」、工場跡地に設けられたパルク・デ・ザトリエの不思議な空間で繰り広げられるコンサートビデオのライブショーなどが楽しめます。また、歌や音楽、ダンスのワークショップやプロレベルのレッスンなども行っており、違ったアプローチからフェスティバルに参加することも可能です。

[www.suds-arles.com](http://www.suds-arles.com)

## 音楽フェスティバル レ・ゼスカル・デュ・カルゴ Les ESCALES du CARGO

この音楽フェスはクラブ「カルゴ・ド・ニューイ」のコンサートホールの誕生10周年を記念し、クラブのプログラムを拡大する形で2005年夏に始まりました。この5年間、当音楽フェスでは7月末に当代きってのミュージシャンを古代劇場で集めてコンサートを開催しています(古代劇場はまさに最高の音楽を聴くための魅惑の屋外ステージです!)。当フェスティバルには過去に、ベナバル、ゴタン・プロジェクト、カリ、レ・リタ・ミツコ、カミーユ、マッシュヴ・アタック、ヤエル・ナウム、キャラバン・パレス、ピート・ドハーティ、ヒュー・ローリーなどが参加しました。

次回のフェスティバルのプログラムについては [www.escales-cargo.com](http://www.escales-cargo.com) をご参照ください。

## 古代ローマ祭り「アルラーテ ARELATE」とスペクタクル史劇フェスティバル le FESTIVAL du film PEPLUM

8月最後の一週間、アルルが「アルラーテ」と呼ばれていたかつての古代ローマ都市に早変わりし、ガリア・ローマ時代の歴史を振り返ります。円形闘技場での出し物、戦車競走、大道芸、ローマ軍の野営地やローマの居酒屋の再現、スペクタクル史劇映画の上映といった各種イベントを通じて、ありとあらゆる人びとを古代ローマの世界へと誘います。

祭りの一環として、一週間の会期でスペクタクル史劇映画祭も開催されます。映画祭では古代劇場という特別な場所で大画スクリーンに映し出される作品を楽しみます。

## プロヴァンス特産物の見本市 プロヴァンス・プレスティージュ PROVENCE PRESTIGE

11月の第3週に5日にわたって開催。

クリスマスシーズンを前に、この見本市ではプロヴァンス地方のライフスタイルをテーマに、この地方でつくられたものを集めて一般に紹介しています(テーブルアート、陶器、工芸品、装飾品、ガストロノミー、ワイン、オイル、米、砂糖菓子など)。

プレスお問い合わせ : Francine RIOU - [f.riou@arlestourisme.com](mailto:f.riou@arlestourisme.com)

04 90 18 41 24 - 06 87 56 10 71

各スタンドはオークル、黄色、ワインレッド、緑といったプロヴァンスを象徴するさまざまなニュアンスの色をバリエーション豊かに組み合わせて飾られます。スタンドは食品を扱うものであれ、装飾雑貨や衣類を扱うものであれ、いずれもクリスマスシーズンの家々のように飾りつけられ、毎年 3 万人以上の来場者を魅了しています。

また、その道のプロたちが大勢集まり、ワークショップや試食会や試飲会などを通じて見本市を盛り上げます。

11 月なのにクリスマス気分が味わえる——それがプロヴァンス・プレスティージュです！

[www.provenceprestige.com](http://www.provenceprestige.com)

### 国際サントン人形見本市 SALON INTERNATIONAL DES SANTONNIERS

11 月中旬～1 月中旬開催。

1958 年 12 月から続いているフランス最大のサントン人形見本市です。見本市ではクレージュやクリスマスの伝統、世界各地に伝わるキリスト降誕のシーンなどを伝統的あるいは現代的なサントン人形たちを使って芸術的に展示しています。サン・トロフィーム教会の回廊にて開催され、毎年大勢の人びとが訪れています。

### 大道芸フェスティバル ドロール・ド・ノエル DROLES DE NOELS

2005 年にアルル市が創設した「ドロール・ド・ノエル」は、年末のパーティシーズンを大いに盛り上げる大道芸のフェスティバルです。市内各所でおよそ 100 の無料のショーやイベントが開催され、多くの家族連れを楽しませています。

[www.droles-de-noels.fr](http://www.droles-de-noels.fr)

### アルル 暮らしのアートが光る町

年間 300 日以上の日照日に恵まれるアルルは暮らしやすい南仏の町。その特別な陽光が生活の質を大いに高めています。

太陽が顔を出すや、アルルっ子や避暑客たちはリス大通りや歴史地区のたくさんの広場に設けられたカフェテラスに陣取ります。土曜日のマルシェはもはや恒例行事となりました。アルルの市はプロヴァンス屈指の美しさを誇るのと同時に、2km にもわたって続く最大規模のもので、野菜や果物はもちろん、チーズや肉、魚その他の生鮮食品、花、スパイス、蜂蜜、美味しい特産物のほか、服や靴、布地、工芸品までありとあらゆるものが売られています。

プレスお問い合わせ : Francine RIOU - [f.riou@arlestourisme.com](mailto:f.riou@arlestourisme.com)

04 90 18 41 24 – 06 87 56 10 71

## アルル プロヴァンス地方を 365°見渡せる町

アルルは多彩な景観を備えた観光の戦略的拠点です。この町は何よりもまず、豊かな動植物が生息し、ヨーロッパでもっとも美しい自然サイトに数えられるカマルグの玄関口に位置しています。またアルルといえば川、つまりローヌ河の町であり、28km にわたって続く美しいパウダーサンドの浜は地中海地方でもっとも大きい天然のビーチとなっています。

### アルピーユ山脈 Les Alpilles

アルピーユ山脈はアルルの北東に 25km にわたって伸びており、城砦都市レー・ボー・ド・プロヴァンスはこの山脈を見晴らす場所に築かれています。山脈の周りにはブドウ畑とオリーブ林に囲まれた陽光降り注ぐのどかな村々(フォンヴィエイユ、パラドウ、モーサンヌ、サン・レミなど)が点在しています。

また、プロヴァンス地方とラングドック地方の境界近くにあるアルルを旅の拠点にすれば、タラスコンやボーケール、サント・マリー・ド・ラ・メール、エクス・アン・プロヴァンス(セザンヌの故郷)とサント・ヴィクトワール山、マルティエグとコート・ブルー(青い海岸)、マルセイユ(フォカイア人が建設した町)、カシのカラנק(石灰石の断崖に囲まれた入江)、オーバーニュ(マルセル・パニョルの町)とサント・ボーム山塊、ニームとポン・デュ・ガール、アヴィニヨンと法王庁宮殿、サロン・ド・プロヴァンス(ノストラダムスとフランス空軍のアクロバット飛行隊「パトルイユ・アクロバティック・フランス」の町)などに足を延ばすことができます。

アルル市が含まれているアルル・クロー・カマルグ・モンタニェット都市圏共同体には 2004 年よりタラスコン、サン・マルタン・ド・クロー、ブルボン、サン・ピエール・ド・メゾアルグも加わっており、多様性に富んだ豊かな都市圏共同体が形成されています。

### ラ・クロー 平野 La Crau

北のアルピーユ山脈と南のベール湖にはさまれたクロー平野はかつてデュランス川の三角州だった地域で、その面積は 600 km<sup>2</sup>。アルル市においてカマルグが水の地であるように、鉱物の地として知られています。

クロー平野はデュランス川に運ばれてきた小石が堆積してできた広大な台地で、クロー砂漠とも呼ばれています。

クロー平野は以下の二つの地域に分けられます。

- 北部は湿潤で緑の多い肥沃な平原で、有名なクロー秣(まぐさ)を栽培しています(クロー秣は AOC/原産地統制呼称を認定された唯一の飼料です)。古くよりここで羊が遊牧されていたことがわかっており、古代の羊小屋の跡が数多く残っています。この地域には今なお大規模な羊舎があり、羊の群れを迎え入れています。羊の数は現在 10 万頭近くを数え、そのなかには有名なアルルのメリノ羊も含まれます。
- 南部は乾燥地帯であり、ヨーロッパで最後の乾燥ステップ地帯となっています。ここはまさに留鳥の楽園で、120 種が確認されており、豊かな自然をもつクロー平原の名声をつくりあげています。また、フランスで唯一、シロハラサケイ(*Pterocles alchata*)が生息する場所と

プレスお問い合わせ : Francine RIOU - [f.riou@arlestourisme.com](mailto:f.riou@arlestourisme.com)

04 90 18 41 24 – 06 87 56 10 71

なっています(つがいの数はおよそ 100 組)。さらに、フランスで二つしかないヒメチョウゲンボウ (*Falco naumanni*) の営巣地と一つとなっています(つがい 40 組)。

1987 年よりクロー平野は自然保護区となっており、1991 年には特別保護区に指定されました。クロー平野を知るにはサン・マルタン・ド・クロー・エコミュージアム *l'écomusée de Saint Martin de Crau* を訪れるのがいちばんです。この博物館はかつて羊舎だった建物に入っており、クロー平野の自然と文化遺産を保護し、その価値を高めるために活動しています。

## アルル 発展する経済の町

アルルの土地の 75%は農業に使用されています。しかしその一方で多くの企業や企業家がアルルに本拠地を置いています。その理由は「地理的に、あるいは財政上有利だから」、「この町に愛着があるから」などさまざまですが、よく口にされるのがクオリティ・オブ・ライフ、生活の質の高さです。

### 世界的な音楽レーベル／アルモニア・ムンディ社 *Harmonia Mundi*

1958 年に設立されたレコード会社で、1986 年よりアルルに本社を置いています。今日、クラシック音楽界のもっとも権威あるレーベルの一つに数えられており、高名な演奏家や指揮者がレコーディングを行っています。文化を創出するこの会社はカマルグのル・マ・ド・ヴェールに所在し、アルル市のおもな雇用創出源となっています(従業員数は 176 人)。地元経済の重要な立役者となっているアルモニア・ムンディ社は、全世界で販売されているディスクを通じて、アルルの文化的名声の強化に貢献しています。

### 出版界の地方分権化の成功事例／アクト・シュッド社 *Actes Sud*

1983 年にユベール・ニサンがパリから 800km 離れた場所に自身の出版社の本拠地を構えたとき、出版人の多くが否定的なコメントを口にしました。それから 25 年。アクト・シュッド社はこれまでに出版を希望する人から 6 万点もの未発表作品を受けとり、5,000 点の著作物を刊行しています。年間では 350 タイトルを発刊しており、現在 100 人ほどの従業員を抱えています。同社は年間を通じた音楽プログラムの提供や宗教音楽祭 *festival de Musique sacrée*、ジャズフェスティバル、アルル読書祭 *les Lectures en Arles* といったイベントの開催あるいは協賛に力を入れており、ここ数年でアルルの文化シーンを支える大黒柱となりました。

### 建設資材調査研究所 LERM

建設資材調査研究所 (*Laboratoire d'études et de recherches sur les matériaux/LERM*) は建築および公共事業を請け負う総合建設会社が頼りにする科学的研究機関です。1997 年よりアルルの歴史地区内に居を構える当研究所は、建物の強化・修繕工事に先立つコンクリート、セメント、モルタル、石その他の建設資材の調査または鑑定や、新規建造物に使われる建材の望ましい化学的配合の特定などを必要としている世界各地のサイトで活動を展開しています。その確かな専門性

プレスお問い合わせ : Francine RIOU - [f.riou@arlestourisme.com](mailto:f.riou@arlestourisme.com)

04 90 18 41 24 – 06 87 56 10 71

から当研究所はこれまでにパリのジャン・ボワン・スタジアムや、リスボンのテージョ川に架かる橋、上エジプト(ナイル川上流地域)の歴史遺跡周辺地域などにエンジニアを派遣しています。地元アルルにおいては、古代ローマの円形闘技場の修復工事の際にコンサルティングを行いました。2003年には国際建築材料見本市(Batimat)で建築大賞を受賞しています。

### 知的遺産を後世に伝えるテクノロジーを提案／図書保存センター(CCL)と図書保存地方間センター(CICL)

本やデッサンや図面をはじめとする図書資料は歳月に抗えない脆弱な媒体であり、つねに劣化や破損の危険にさらされています。図書保存センターCentre de Conservation du Livre/CCLと図書保存地方間センターCentre Interrégional de Conservation du livre/CICLは、この大切な遺産を保存する方策をいくつか提案しています。CCLは鑑定を実施し、図書保全についての意識の向上を図り、この分野のプロたちに保全技術を指南しています。CICLは図書を修復したり、紙媒体をマイクロフィルム化あるいはデジタル化したりする技術全般を提案しています。このCICLの活動には予防的な保全措置も含まれており、当センターには図書館や古文書を保管しているさまざまな機関から関心が寄せられています。現代のテクノロジーを通じて、世界の図書遺産の保護と保管を担う巨大な市場を対象とした各種アプリケーションがいかんにして生み出されたのか——CCLとCICLはその疑問に答える例証となっています。

### IT技術を歴史遺産に活用する／アール・グラフィック・エ・パトリモワン社

アルルの新しい技術は必然的にその貴重な遺産、つまりその類まれな建築遺産に発揮されています。2001年に部署の一部をアルルに置いたアール・グラフィック・エ・パトリモワン(AGP)社は、まさに歴史遺産の価値向上と新しいテクノロジーとの統合を象徴する存在です。修復工事に先立ち、石工、建築家、歴史家、グラフィックデザイナーから成るチームが高度な精度を誇る建築図書を作成しています。当社ではまた、歴史遺産の復元や文化遺産となるサイト、調度品、オブジェの価値向上に寄与するCG画像や3D画像の制作も手がけています。アルルの建築物関連では、円形闘技場の建築図書の作成のほか、復元された古代劇場や2003年末に発見された初期キリスト教の教会堂の基礎部分に関する3D画像の制作に携わりました。

### コンピューターグラフィック高等専門学校 L'école SUPINFOCOM

2000年、アルルにあるフランス国鉄(SNCF)の旧作業所内に開校した同校はEU、プロヴァンス・アルプ・コート・ダジュール地方議会、ブーシュ・デュ・ローヌ県議会、アルル市の支援を受けています。

2013年7月、ロサンゼルスで開催された有名なコンピューターアニメーションフェスティバル、シーグラフ Siggraph で、同校の5人の学生が制作したアニメーション映画『A la Française(フランス流)』が専門家から構成される審査団によって全世界の500本を超える作品のなかから選ばれ、全

プレスお問い合わせ : Francine RIOU - [f.riou@arlestourisme.com](mailto:f.riou@arlestourisme.com)

04 90 18 41 24 – 06 87 56 10 71



カテゴリーを合わせた最高賞にあたる「ベスト・イン・ショー・アワード」賞を受賞しました。そのことによりこの短編映画はアカデミー賞にノミネートされる可能性も出てきました。

### ラ・シテ・ド・リマージュ La Cité de l'Image

フランス国鉄 (SNCF) 旧作業場の改修工事とそれに伴う 2007 年のグランド・ホール la Grande Halle のオープンや、建築家フランク・ゲーリーが手がけ、LUMA 財団によって進められているパルク・デ・ザトリエ・プロジェクト le projet de Parc des Ateliers は、写真芸術や映像技術を核としたアルルの町づくりの方向性を支える重要な要素となっています。

パルク・デ・ザトリエ・プロジェクトの目玉となるのが、高さ 56m のフランク・ゲーリータワーです。タワーはその一部がステンレスで覆われ、内部には展示室やアーティストのレジデンスのほか、最上階にはレストランが設けられます。また、映像・通信関連の企業や店舗、大学施設 (国立高等写真学校、SUPINFOCOM、テクノロジー大学校 / IUT など) も入居する予定です。

**施設は 2017 年に完成します。**

プレスお問い合わせ : Francine RIOU - [f.riou@arlestourisme.com](mailto:f.riou@arlestourisme.com)

04 90 18 41 24 – 06 87 56 10 71

## アルルに滞在する

### 宿泊施設とレストラン

- **ホテルの数は 50 軒**。うち 2 軒は 5 ツ星です（アルルのもっとも古い地区にあるパルティキュリエホテル L'Hôtel particulier と、カマルグの中心部にあるマ・ド・パンホテル Hôtel Mas de Peint）。
- **ペンションは 88 軒**。アルル市内中心部、カマルグ、クロー、アルピーユ山脈に点在しています。
- **キャンプ場は 5 カ所**。うち 3 カ所は三ツ星です。サイト総数 278。
- **レストランは 144 軒**。プロヴァンス料理、バスク料理、ブルターニュ料理、リヨン料理、フレンチの伝統料理のほか、オーガニックやベジタリアン、さらにはアンティル諸島、アジア、スペイン、イタリアン、オリエンタルなどの世界各地の料理やハンバーガーおよびスナックなど多彩な料理が食べられます。

さらにミシュランの星を獲得したレストランも 2 軒あります（ラ・シャサネット La Chassagnette とラトリエ・ド・ジャン＝リュック・ラバネル L'Atelier de Jean-Luc Rabanel）。ラバネルはオーガニック料理で初めて星を獲得した名シェフで、彼の店は最近、「極上の店」の称号を与えられました。また 2012 年にはレストランガイド『ゴー・ミヨ』で 5 つのcock帽を獲得しました。

また、5 軒のレストランがフランス料理店協会（AFMR）から名レストランの称号を授けられています。この称号は定評のある優れた技能をもち、新鮮で未加工の食材だけを使用しているレストラン業者を認定し、その価値を高めようとする国と業界の共通した意志から生まれたものです。

- L'Estrambord au Sambuc（レストランボー・オ・サンビュック）
- Le Flamant Rose à Albaron（ル・フランマン・ローズ・ア・アルバロン）
- Lou Marques à Arles（ルー・マルク・ア・アルル）
- Le Mas de Peint au Sambuc（ル・マ・ドゥ・パン・オ・サンビュック）
- Le Saint Pierre à Arles（ル・サン・ピエール・ア・アルル）

プレスお問い合わせ : Francine RIOU - [f.riou@arlestourisme.com](mailto:f.riou@arlestourisme.com)

04 90 18 41 24 – 06 87 56 10 71

## アクセス

### ➤ マルセイユ・プロヴァンス空港より:

- シャトルバス「エアポート・トレイン」: 空港とヴィトロール駅を 10 分で結んでいます。切符は空港の窓口で購入可能。  
<http://www.marseille.aeroport.fr/acces-et-parking/acces/trains>
- タクシー: 7 時～19 時は約 140 €、19 時～翌 7 時は約 175 €
- 車: レンタカーサービスあり。

### ➤ パリから TGV(高速鉄道)にて:

- TGV アヴィニオン駅: 約 90 €、所要時間は 2 時間半～3 時間
- 1 日 2 本の TGV 直通便あり

### ➤ マルセイユから:

- 鉄道: [www.sncf.fr](http://www.sncf.fr): 片道約 15 €、所要時間は 3 時間 30 分～ 4 時間
- タクシー: 7 時～19 時は約 165 €、19 時～翌 7 時は約 210 €

### ➤ アヴィニオンから:

- 鉄道: [www.sncf.fr](http://www.sncf.fr): 約 9 €
- タクシー: 7 時～19 時は約 67 €、19 時～翌 7 時は 85 €

### ➤ ニースから:

- 鉄道: [www.sncf.fr](http://www.sncf.fr): 約 50 €、所要時間は 3 時間 30 分～ 4 時間

### ➤ トゥールーズから Depuis Toulouse :

- 鉄道: [www.sncf.fr](http://www.sncf.fr): 約 50 €、所要時間は 3 時間 30 分～ 4 時間

プレスお問い合わせ : Francine RIOU - [f.riou@arlestourisme.com](mailto:f.riou@arlestourisme.com)

04 90 18 41 24 – 06 87 56 10 71

## 数字で見るアルル

フランスで最も大きな自治体: 77000 ヘクタール - 人口 54088 人

ホテルベッド数 3140 と受け入れ可能数 6343 人

フランス人観光客: 50% (プロヴァンス地方: 28%、イル・ド・フランス地方: 13%、ローヌ・アルプ地方: 12%、ラングドック地方: 8%)

外国人観光客: 50% (ドイツ人とイタリア人: 13%、アメリカ人: 12%、イギリス人: 9%、スペイン人: 9%、ベルギー人: 7%、オランダ人: 5%、カナダ人: 4%、スイス人: 4%、日本人: 2%)  
年間観光客約 200 万人。



[www.arlestourisme.com](http://www.arlestourisme.com)

2014 年 1 月 14 日現在の情報

プレスお問い合わせ : Francine RIOU - [f.riou@arlestourisme.com](mailto:f.riou@arlestourisme.com)

04 90 18 41 24 – 06 87 56 10 71